

連載 第13回 『試聴室探訪記』
～谷口とものり、魅惑のパノラマ写真の世界～
原口博行氏のリスニングルーム訪問

フォトグラファー 谷口 とものり・森 芳久・石井 伸一郎



今回訪問させていただきました原口邸は、伊豆の高級別荘地伊豆高原に設えられた大型のリスニングルームです。原口博行氏は関西で会社経営をされていましたが、念願の「思う存分良い音で音楽を楽しみたい」と、リタイアされた後、この伊豆の海が眺望できる伊豆高原に別荘を建てられました。

クラシックファンとしてオーディオを趣味として始められた原口氏は、次第にオーケストラを等身大で聴きたいという願望が強くなり、ここまで行き着いたとのこと。確かに、ここで聴く大音量の音楽は普通の家庭ではなし得ないものです。まるで目の前に楽団が勢揃いしているかのようです。シンフォニーはもちろん、ビッグバンドのジャズも朗々と鳴り、原口さんがこのリスニングルームで聴くようになって、ジャズの魅力にも取り付かれたという言葉にも頷けます。それにしても、羨ましい限りの贅沢なリスニングルームです。

この大型のリスニングルームは、第9回の佐原邸と同じく、石井伸一郎氏の設計になるものです。石井氏からこの部屋に関する寄稿もいただきましたので合わせてご覧ください。

また、石井氏から美しい装置のレイアウト図をいただきましたので、装置の詳細はこの図をご参照ください。従いまして、今回のパノラマ画像には、いつものような機種名などが表記されません。尚、今回の取材には、設計者石井伸一郎氏、アキュフェーズの高松重治氏にもご協力いただきましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

(森 芳久)

原口邸のリスニングルームについて

オーナーの原口氏は若い時にオーケストラの曲に感激してオーディオに興味を持ち、初めはパナソニックの通称ゲンコツと呼ばれた 8PW1 を用いたシステムで聴いていましたが、次第にエスカレートして 38cm 2 本と中音ホーンと高音ホーンにリボンツイターを用いた現在のシステムの中核をなすシステムにまで発展したのです。このシステムは奈良の生駒の自宅の 24 畳間のリビング兼応接間に設置されていたのですがいくら調節しても期待する音を再生することは出来ませんでした。

散々苦労した末にどうしても良い音が出ないので思い余って筆者のところに相談に来られたのです。部屋の寸法を聞いてみると、筆者が発見した「天井の低い部屋を縦長配置で用いた場合に発生する低域の大きな谷」のために良い音が出ないことがわかりました。そこで筆者宅で縦長配置と横長配置の音を体験して頂き、スピーカー配置を横長配置に変更することをお勧めしたのです。早速横長配置に変更したところ、期待した音が再生されて非常に喜んで頂きました。

その後しばらくして伊豆高原に別荘を建てるのでそこに理想的な部屋を造りたいと相談があったのです。

この部屋は伊豆急鉄道の伊豆高原駅から車で 10 分ほどの見晴らしの良い山腹に建てられた鉄筋 2 階建ての別荘の一角に一二階吹き抜けで造られています。大きさは 8m×6.6m×5.8m で筆者の設計した個人の部屋ではもっとも大きな部屋です。縦横高さの比率は 1 : 0.825 : 0.725 と正確に筆者の推奨値の比率になっています。床面積は正味 32 畳間で、容積は 306 立方メートルと非常に大きな部屋です。

この部屋の音響処理は筆者の考案した完全反射完全吸音式の壁構造を採用しています。吸音部の面積はオーナーがクラシックをメインに聴くことから床天井と周囲の壁面の全面積の 17% に設定しています。

反射壁の構造は、12mm のプラスターボード 2 枚の上に 5.5mm のシナ合板表面材を貼った合計厚さが 30mm の強固な構造です。反射壁の後ろにも合計 120mm のグラスファイバー吸音材が挿入されています。

床はコンクリートの上にコンパネと呼ばれる 12mm のラワン合板の上に 15mm の無垢のカリン材を張った強固な構造です。床暖はありませんが冬季も特に問題は無いようです。

スピーカーの対面の壁面には大きなスライド式の扉が 2 枚設置されているが、この扉を開放すると隣の食堂で食事をしながら音楽を楽しめるようになっています。朝食のときには女性ボーカルをサブスピーカーから小さなサブスピーカーから流しながら食べると非常に幸せな気持ちになります。

眼下に相模湾があり、その向こうに伊豆大島が見える風光明媚な場所なので海側の壁面には大きな窓を付けましたがこれは非常に良かったと喜ばれています。厳密には少し特性に影響があるかも知れませんが実用上は全く問題は無いようです。ガラスの厚さは 10mm です。設計と工事は地元の建築会社が担当しましたが、事前に新潟にある完全反射完全吸音の部屋を設計者と工事担当の職人さんに見てもらったのが非常に役にたっています。

部屋の長さが 8m なので最低のモードの周波数は 21.8Hz と可聴帯域の下限に近い値になって

います。天井が高いので縦長配置でも非常に良い特性なのですが、横長配置を前提に設計しています。

スピーカーシステムは最低帯域に 72cm ウーファーを用いた 6 チャンネルシステムで非常に大きなステージが眼前に広がります。氏はクラシックを主に聴かれるので、この部屋のスピーカーからリスニングポイントまでの特性は低域が盛り上がり高域が緩やかに低下している特性となっていて大型システムらしいどっしりした音が再生されます。

このシステムのスピーカーユニットの構成は氏がオーディオ誌を参考にご自分で考えられたのですが、各ユニットの特性を測定してクロスオーバー周波数を決めたり最初の特性の基本設定は筆者が行いました。そして各チャンネルのレベルの微調整は氏が愛聴盤を聴きながら行いました。

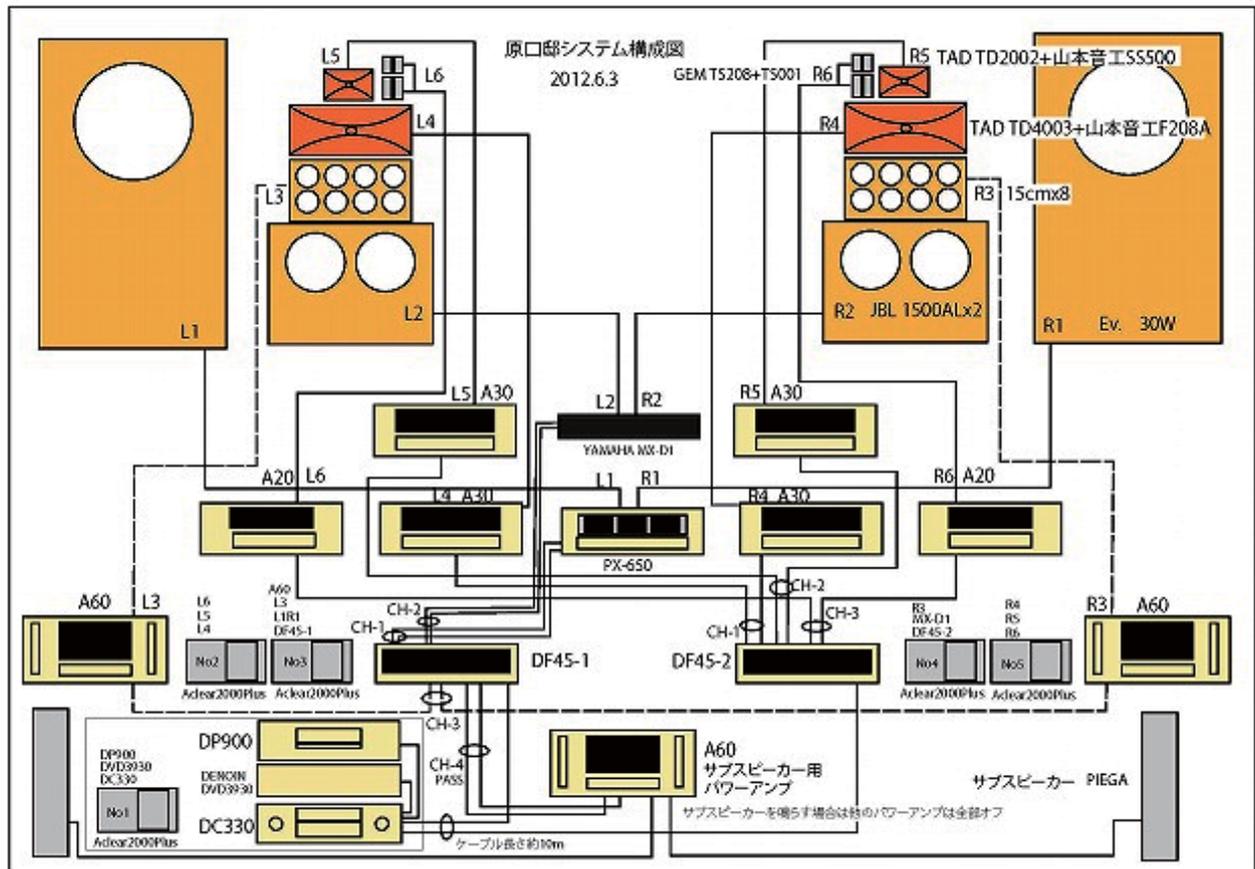
また各ユニットのディレイタイムはウェーブレットスカログラム測定法を用いて調整していますがこれによって非常にシャープな音像定位が得られています。

このシステムで再生される音は、女性ボーカルは非常に艶のある声で鳴り、オーケストラは非常に雄大なスケールの音像が再現されるのでオーナーは非常に満足されています。

撮影が済んでから音出しをしたのですがオーケストラの迫力と、ジャズのビッグバンドの迫力、それに鬼太鼓座の大太鼓の大迫力に撮影者と取材者は非常に感激されたようです。演奏が済むと自然に拍手が出るほど凄い臨場感が味わえました。

(設計者 石井伸一郎)

原口邸システム構成図



パノラマ画面の操作説明

- パノラマ写真は、[ここか](#)、はじめのページの**試聴室画像**をクリックしてご覧ください。
(ローディングに若干時間がかかる場合があります。)
- マウス操作で、画面を上下・左右 360 度、自在に回転してご覧いただけます。
- スピーカー、アンプ等、マウスを当てて、クリックすると機器名が表示されます。
- 画面下にある操作ボタンで次の操作ができます。

	画面のズームイン
	画面のズームアウト
	画面の左方向への移動
	画面の右方向への移動
	画面の上方向への移動
	画面の下方向への移動
	サウンドオフ
	フルスクリーン
	画面回転ストップ